

第3回 可児市都市計画審議会議事録

1. 開会日 平成28年1月7日(木曜日) 開会時間：午後2時00分
閉会時間：午後3時50分
2. 開会場所 可児市役所4階第1会議室
3. 出席委員 都市計画審議会 会長 和泉 潤
都市計画審議会 会長職務代理者 伊藤 栄一
都市計画審議会 委員 林 則夫
勝野 正規
渡辺 仁美
田原 理香
和田 義則
伊藤 峰由
可児 征子
長谷川 彰
森 夕貴
山本 学
4. 事務局 建設部長 村瀬 良造
都市計画課長 田上 元一
都市計画課 都市政策係長 溝口 英人
都市計画課 総務係長 杉山 尚示
都市計画課 都市政策係 金沢 貴
5. 議 事 協議第5号 可児市都市計画マスタープランについて
6. その他

7. 会議内容	以下のとおり
都市計画課長 田上	開会を宣言し、あいさつまで、司会を行った。 昇委員、奥村委員、加藤委員は欠席、林委員は遅刻であることを報告した。 議事録の作成について、各委員の名前を明記することを諮った。
全員	異議なし。
都市計画課長 田上	今回は諮問事項がないため、署名人の指名は行わない。
和泉会長	議事に従い、事務局に協議第5号の説明を求めた。
都市政策係長 溝口	第四次総合計画、人口ビジョン・総合戦略について、資料に基づき説明を行った。
都市政策係 金沢	可児市都市計画マスタープラン（以下「都市マス」という。）について、資料に基づき説明を行った。
質 疑 応 答	
和泉会長	質問や意見はあるか。
勝野委員	平成17年に現行の都市マスができて10年経ち、人口減少や高齢化等、時代背景が変わってきた。そこで、どのような計画を入れるか、方針が必要であると思うのでお聞きしたい。
都市計画課長 田上	全体構想を示したときに詳しく話したいと思う。人口が減りつつある中で、人口ビジョンでは8万人に留めるように施策を行っていく。都市マスでは、活力や住みやすさを前面に出してやっていき、全体構想の将来像の中に表現できるようにしていきたい。
勝野委員	アンケートのP4、5の平均値はどのように出したか。
和泉会長	不満から満足まで点数をつけてそれぞれの人数をかけたものを、全体の人数で割って出していると思う。
勝野委員	公共交通の整備は、現実問題として充実していけるのか。

<p>都市計画課長 田上</p>	<p>可児市は分散型都市構造である。これから車に乗れない高齢者が増え、公共交通の需要も増えていくと思う。さつきバスやデマントバスは税金を投入して運行しているが、どこまで税金を投入するかが問題である。一方、ある団地では皆さんの力で移動サービスを行っている。行政で担う部分と皆さんで担ってもらう部分、国や県が担う部分それぞれの役割を整理していく時期が来ていると思う。どこまで市で担うかを考えていく。</p>
<p>田原委員</p>	<p>都市マス策定を進める上で、地域をいかに動かすかが重要だと思う。しかし、自治会や自治連は今で精一杯で、5年後、10年後を考えていられない。その中で市は、地域というものをどのように考えているか。また、これらを実現していくためには市の強いリーダーシップが必要である。地権者の意向ではなく、市としてこのような土地利用をしたいというのを示していかないといけないと思う。</p>
<p>都市計画課長 田上</p>	<p>都市マスは都市づくりの方針を示すものである。それを元に、具体的に都市計画の手法で規制、誘導をかけていく。そのため、具体的な地域の巻き込み方というのは示しづらい。方向性として、地域の方と共にまちづくりを進めていくことは書きこまないといけないと思っている。またリーダーシップという点では、土地利用や施設整備の具体的な手法として、桜ヶ丘の地区計画は大きな方向性であると思う。ただ、100%都市マスや具体的な規制、誘導でやっていけるかは難しい。一方、誘導していく仕組みとして、可児市にはまちづくり協議会がある。</p>
<p>田原委員</p>	<p>まちづくり協議会は桜ヶ丘だけで、あまり機能していない。地域の方は都市マスをほとんど知らないし、話し合いもない。そのため、地域への落とし込みが出来るか懸念している。</p>
<p>和泉会長</p>	<p>土地利用に関して、日本の場合、私が財産権を持っているため強い。それを公に使うってほしいと言えない状況である。それが都市計画を考える上での問題だと思う。もうひとつ重要なのが、まちづくりに関してはトップダウンではなく、ボトムアップで行うことだ。今話したように、コミュニティ単位での議論が重要である。</p>

長谷川委員	アンケートの中に定住意向があるというのは、利便性があるとか人との交流があるということだと思う。市民意向の中に歩いて暮らせるまちづくりがあるが、都市計画の課題の中にどのように織り込まれているかを聞きたい。
都市計画課長 田上	都市計画のキーワードの中にコンパクトシティがある。歩いていける範囲で日常生活が充足できるようにするということが、用途地域でいえば増加する人口を整える方向から、近くで充足できるような土地利用や施設整備をしていく。
都市政策係長 溝口	コンパクトシティにおいては基盤整備も集中して投資できる。しかし可児市は用途地域が分散していて、物理的に無理なところもある。そこで、都市計画道路を充実させて歩道を確保したり、拠点までのアクセスを良くしたりして、ネットワークという意味での歩ける環境を作っていきたい。例えば、可児駅の西側は住居地域だが、田が多い。少しずつそのようなところの土地利用を呼び込みやすい環境作りをしていくことが、歩いて暮らせるまちづくりに繋がっていくと思う。
渡辺委員	施設整備と公共交通について、施設整備はリデュースを含めた整備になると思うので、そこに使うお金を公共交通に使うと都市計画に必要な部分が補われると思う。若者が都心部に行くのは公共交通の充実があげられる。可児市は、すでにコンパクトシティ構想が実現していると思うので、そこを繋げる公共交通にスポットを当てるべきだと思う。
都市計画課長 田上	これまでの都市マスよりも、公共交通の重要度が増してくると思う。現在、国交省ではコンパクト&ネットワークと盛んに言っている。皆さんが住むところはコンパクトに、それらをネットワークで結ぶということである。これからは、公共交通施策が都市計画という観点でも重要になってくる。
和泉会長	総合計画の中でライフラインがあるが、そこに何故道路が入っていないのか。道路をどう考えていくかは重要である。
山本委員	都市計画は土地や建物がメインになると思う。主に何かの施策があつての土地利用になると思うので、方向性が見えない中での議論は難しい。またこの都市マスに、外から入ってくる人達にと

	<p>って、いかに使いやすい動線を確保していくか等のプランが入ると面白いものになっていくのではないかと。もうひとつは、子供たちに福祉をやるというのは20代から30代を対象にしているが、40代から50代に対してはどうなのか。また、高齢者が一括りだが、65歳、70歳、90歳といろいろいる。それぞれに合わせた施策を盛り込んでいくと良いのではないかと。先程の公共交通の話だが、鉄道やさつきバス等だけが公共交通ではない。東京では、ある企業が2020年までに無人タクシーを走らせるという話がある。メーカーは何十億とかけて商品開発しているが、その企業は市場に出ている車にオプションをつけて走らせるという考えなのでローコストになる。また前回話したカジノやドローン等、規制緩和をすることで人が集まるといような、次の施策に繋げる都市計画を考えてほしい。</p>
和泉会長	ドローンは面白いが空中権の問題を解決しないといけない。
森委員	毎日学校へ行くために可児駅を利用しているが、通勤・通学の時間帯はロータリーが混雑している。また、近くに休憩したり食事したりする場所が少ないと感じている。そのため、駅前広場や交通結節点の整備をしてもらえるとありがたい。
和泉会長	それは都市計画法上とても重要な意見だ。
都市計画課長 田上	可児駅については、子育て拠点施設や駅前広場、自由通路が平成30年に完成する予定である。駅前広場が整備されることにより、自家用車とバス等が分けられて利用しやすくなる。子育て拠点施設には可児市の魅力を発信する施設や、軽食が取れる場所ができることにより、利便性が良くなる。またコミュニティバスやデマントバスについて、平成30年度の整備に併せて計画の練り直しをしたいと考えている。鉄道との連携や駅発着にする等、より結節点を利用しやすいようにしていきたい。
可児委員	どこをターゲットにするかということだが、私の住んでいる所では現在高齢者が次々と免許証を返納し、外出できなくなっている。また、唯一の金融機関であった農協もATMだけになり、とても困っている。それぞれの団地内で生活できる場所だけではないので、タクシーの本数を増やす等対策をしてほしい。さらに、JR太多線は下切と広見の駅があるが、駅前は何もない。子育て

<p>都市計画課長 田上</p>	<p>拠点施設も良いが、買い物ができる等、魅力ある場所にしてほしい。それには、民間の協力が必要だと思う。</p> <p>皆さんからこれだけ公共交通の意見をもらい、道路網を含めた公共交通の重要性を再認識した。情報提供になるが、現在免許証の自主返納者にさつきバスやデマントバス、東鉄の回数券をプレゼントしている。これにより、さつきバスやデマントバスを知っていただくきっかけになり、さらに意見をもらうことで次の改善に繋がっていくと思う。</p>
<p>渡辺委員</p>	<p>可児市は交通の不便さがなければ素晴らしいと思う。バス停まで行けないため、免許証を返納せずに車を運転しているという方も多くいる。そういったことも加味してもらいたい。</p>
<p>伊藤（峰）委員</p>	<p>この都市マスでは、例えば美濃加茂市と同じような内容になるのだと思う。可児市が力を入れるべきところはどこなのか、またオリンピックやリニア開通を視野に入れながら都市計画を考えていったら、良いアイデアが出てくるのではないか。</p>
<p>和田委員</p>	<p>環境に関して課題が緑化のみになっているが、建築意匠や電柱地中化等、建築物を含めた都市景観にしてほしい。また土地利用について、用途地域外における適切な土地利用の規制・誘導というのが引かかる。21号のインターの辺りは、開発の歯止めがかからないと思う。用途編入するのなら良いが、21号沿道の商業地化というのは書き方を考えたほうが良いと思う。インター付近は現行の都市マスが活かされていないと感じる。可児市は開発圧力があるため、何らかの規制をして土地利用を区分けしていかないといけないのではないか。もう1つ土地利用に関して、環境対策が進んでいるため住商工の混在を解消しなくても良いと思っている。むしろ都市基盤整備の中で、市街地再開発まで踏み込んでどうか。</p>
<p>和泉会長</p>	<p>区域区分がないところでの開発圧力があつた場合、どう対応していくかというのは難しい。歯止めのかけ方を都市マスの中でも考えていかなければならない。</p>
<p>都市計画課長 田上</p>	<p>広見東地区は、今回の1つのポイントになるところだと思う。都市計画の手法である特定用途制限地域に指定されてから10年近</p>

	<p>く経ち、次の代の方の意向もあるため、これからの10年、20年のキーポイントとなる。形態意匠に関しては、岐阜県の屋外広告物条例のモデル地区に指定されており、集合看板しか立たない。都市計画の手法だけで全てが出来るわけではないので、都市計画と農の方とそれぞれやるべきことをやっていく。そして、地元の方や可児市にとって大事な所と位置づけて、開発していく所と守っていく所とを見極めてやっていきたい。</p>
和泉会長	<p>土地利用の混在はコンパクトシティを考えると矛盾する。その調整をどう考えていくかは重要である。</p>
和田委員	<p>混在したままで良いのではないか。</p>
長谷川委員	<p>先程の歩いて暮らせるまちというのはこのことである。</p>
伊藤（栄）委員	<p>都市計画の手法はかなり限られている。都市マスでいうと、土地利用区分と都市施設整備の方針を定めるものだが、各論の先には様々な問題があって、それを都市マスの中になかなか盛り込めない。それは担い手の問題等がある。例えば農の分野をどう位置付けるか。限られた手法の中でどれだけ可児をつくっていくかは、制約もあり難しい。ただ、市民の方にどういう土地利用区分や施設整備方針を目指しているかを知ってもらわないといけない。そのため手法が必要だと思う。図面上で線引きしてあるのを見てイメージが出来ていない。そのため、どのようなまちが出来るのかイメージ作りが必要である。また、上位計画がそれぞれの地域の課題の積み上げで出来ていない。市民の多くの方に理解をもらいながら、ここの中で出てきた課題が、次の総合計画の中に反映されるのではないか。策定の過程がどれだけ市民の方と共有できるのかは、大きな課題だと思う。さらに限られた手法の中で、出来ることやれる可能性のあるものを盛り込んでいるかを検証することも大事である。</p>
和泉会長	<p>まちづくりの現場では、イメージの共有が重要である。</p>
田原委員	<p>よく地域住民と協働のまちづくりと謳われているが、行政が行き届かない所が多い。地域住民との協働というより、地域から提案して一緒になって作っていくということは、人の動きがないと活かせないと思う。その人達をいかに活かすかはこの都市マスに</p>

林委員	<p>かかってくるのではないか。</p> <p>道路についてお願いしたい点がある。1点目は塩の名鉄の踏切の改良、2点目は二野大森線、3点目は兼山のバイパス、4点目は多治見八百津線の柿下の4点である。また現在、観光グランドデザインを策定中であるため、お互いに参考にしてほしい。3万人が10万都市になったのは画期的だと思う。可児は、地震がきても液状化現象はないため安全なまちをPRし、企業や人を呼び込んでほしい。さらに、駅や城跡が多い点もPRになる。ただ駅に車の置き場所がないため駐車場を作り、名鉄広見線を路面電車化して乗降客の利便性を図ってはどうか。</p>
和泉会長	<p>皆さんから色々意見をいただいたが、他に何かあるか。</p>
山本委員	<p>産業が大事ということで、大きな工場誘致も必要だとは思いますが、製造からソフト産業へ移行したり、ベンチャーの施設を作ったりすると面白いと思う。</p>
和泉会長	<p>都市は色々な機能があるが、大きく分けると住む機能と働く機能と遊ぶ機能とそれを繋ぐ移動する機能の4つになる。それは1929年のアテネ宣言でも言われたとおり、都市の基本となる。そのため、今回皆さんから多く出てきた移動の問題をどうするかを、都市マスの中で踏み込んで考えなければならない。また、その他の住む機能と働く機能と遊ぶ機能も重要なので、それらを有機的に結びつけていくことを考えなければならない。そのためには、そこに住んでいる人達のイメージの共有を進めていくことが重要である。</p> <p>それでは、時間の関係もあり、協議は終了とする。まだ意見があるようであれば、意見書に記入して事務局に提出してもらいたい。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px 10px; display: inline-block;">そ の 他</div>	
総務係長 杉山	<p>事務局より事務連絡を行った。</p>
建設部長 村瀬	<p>閉会を宣言した。</p>